

環境保護に向けた取り組み

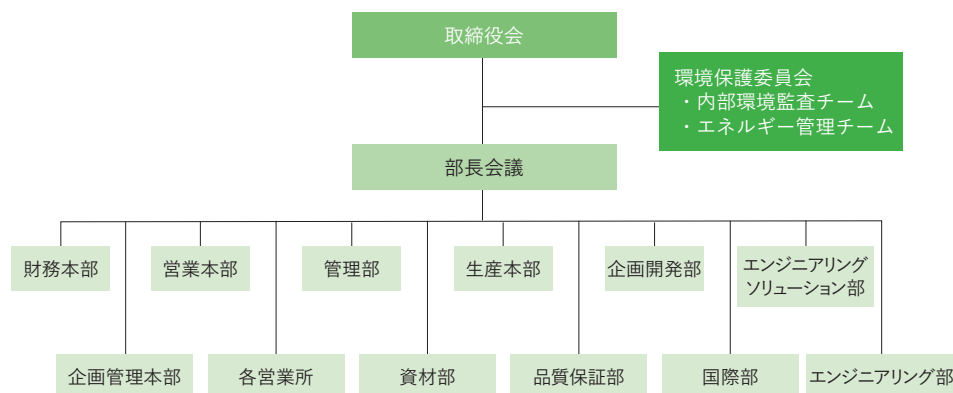
環境方針（基本理念）

トピアグループは、地球環境を持続可能な状態に保つことが、人類にとって最も重要な課題であると強く認識し、事業活動を通じて、環境負荷の低減に向け、積極的に参加および推進を行い、人類と地球の未来に貢献します。

行動指針

- | | |
|----------------------------------|-------------------|
| 1. 環境関連法規の遵守 | 5. 国際社会目標に向けた取り組み |
| 2. 省資源、省エネルギーの推進
（脱炭素化社会への推進） | 6. 環境方針の推進 |
| 3. 循環型社会構築への貢献 | 7. 環境方針の周知と理解 |
| 4. 環境汚染の予防 | 8. 環境方針の開示 |

環境保護推進体制図



環境保護委員会の取り組み

環境保護委員会の重要なミッションは、ISO14001:環境マネジメントシステム（EMS）の維持推進とエネルギー管理であり、EMSの運用強化とエネルギー使用量の調査・改善を通して、環境保護や温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

EMS維持推進への取り組み

● 内部・外部維持監査と環境パトロールの実施

ISO14001の国際認証を継続的に維持するため、内部監査や外部審査、マネジメントレビューを定期的実施し、環境目標の設定・評価・改善を図っています。不適合が発生した場合は迅速に是正し、EMSの持続的改善と信頼性の高い運用体制の維持に努めています。

また、環境・安全・5Sの実践といった観点から環境パトロールを毎月実施し、その結果を共有するとともに、是正・改善策を迅速に実行し、職場環境の維持・意識向上に向けた取り組みを継続しています。



ISO14001 登録証

エネルギー管理の強化に向けた取り組み

● エネルギー管理士による診断

工場別の電力使用量などの実績調査や使用量の推移に加え、エネルギー管理士のアドバイスを得て、エネルギー消費量の見える化、省エネ活動の活性化を図っています。

環境関連法規の遵守

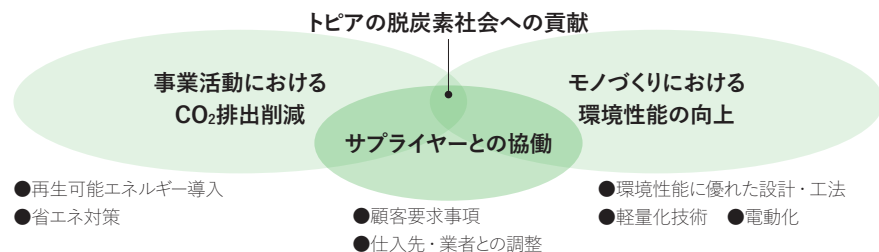
トピアグループでは、廃棄物処理法、化学物質の適正管理、騒音・振動抑制法、フロン抑制法、地球温暖化対策法など事業活動に関連する環境法規を把握し、遵守体制の維持・強化に努めています。社内パトロールや、内部・外部監査を通じて遵守状況を定期的に確認し、法令違反の未然防止と継続的改善を推進しています。

脱炭素社会の実現に向けた取り組み

基本的な考え方

トピアグループは、気候変動対策を重要な責務と捉え、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。グループ内の再生可能エネルギーの導入推進や生産工程の見直しに加え、サプライチェーン全体での環境負荷低減を目指していきます。すべてのステークホルダーとの協働を通じ、次世代に誇れる社会を築くべく持続可能な価値創出を目指すとともに、カーボンニュートラル社会の実現に挑戦し続けます。

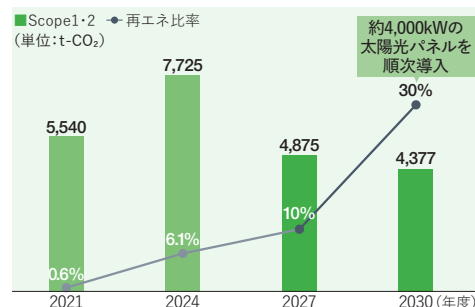
脱炭素社会への貢献



Scope1・2・3の算定結果および削減目標

Scope1・2について、2024年度から2030年度までの7年間で2021年度対比21%削減（年率3%削減）の目標を設定しました。Scope3については、多くの課題がある中、継続的な算定が可能となるよう、システムの整備・改修を進め、課題解決に向けて取り組んでいきます。

国内グループ 温室効果ガス(t-CO₂/年)削減目標



再生可能エネルギーの導入

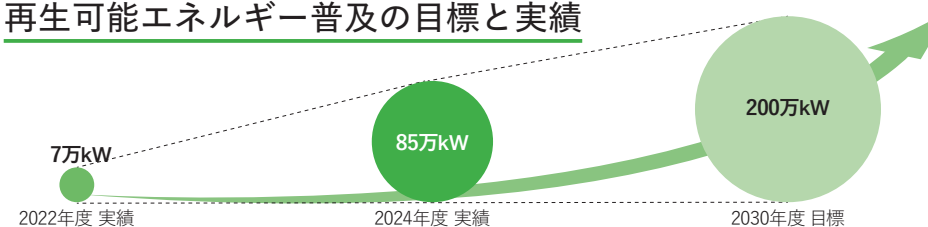
トピアグループは、工場で使用するエネルギーの一部を再生可能エネルギー由来とすることで、温室効果ガス排出量の削減を進めています。国内主力となる鈴鹿本社工場では、自家消費型の太陽光発電設備を順次増設し、2024年度には約320t-CO₂の温室効果ガスの削減を図りました。

今後も継続して自社拠点に太陽光発電設備を設置し、2030年度までに再生可能エネルギーによるCO₂削減量を約7,560t-CO₂にまで高め、地球環境に配慮した事業活動を進めていきます。



昨年度、着工した太陽光パネル（第10および第13工場）

再生可能エネルギー普及の目標と実績



工場における省エネ活動

省エネ推進組織を整備し、エネルギー管理士の提案・指導のもと省エネルギー活動を推進しています。具体的には、空調や設備の効率化、コンプレッサーの設定圧力および運転時間削減、工場のエアリーク調査・補修、エア配管系統の改善によりエネルギー消費の最適化を図っています。

また、本社EMS推進担当やエネルギー管理士が国内の各事業所・営業所を訪問し、グループをあげたCO₂削減活動を推進するとともに、全従業員が自主的に環境に配慮した行動を実践できるよう指導・教育しています。



エアリーク調査

脱炭素社会の実現に向けた取り組み

技術革新で築く、持続可能な社会との共創

地球温暖化の進行により気候変動による災害リスクが高まる中、脱炭素社会の実現は企業にとって重要な使命となっています。トピアグループは、再生可能エネルギーの導入や生産工程の見直しなどを通じて、CO₂排出量の削減とエネルギー効率の向上に取り組んでいます。「社会と共生する企業」として、環境負荷の低減と豊かな暮らしの両立を目指し、持続可能な未来のための一歩を積み重ねていきます。

生産工程の最適化に向けた取り組み

トピアは、独自のシミュレーション技術を駆使し大型車体などの部品の強度向上と軽量化を両立する新工法を実現しています。他社にはない設備・工法・解析技術により差別化を図ることで、工数削減と製品精度の安定化を同時に実現しています。これにより切削技術・調整力・評価技術の高度化が進み、新技術の確立、コストダウン、安全性の向上が可能となっています。また、品質面における向上を追求するだけでなく、脱炭素や再生可能エネルギーなど環境負荷低減の要請にも応え、サステナブルな生産効率向上に日々取り組んでいます。

自家発電体制の構築

脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの活用と省エネルギーの推進を柱として、自家発電体制の強化に取り組んでいます。すでに導入している太陽光発電設備を基盤に電力の安定供給と効率的な活用を進め、環境負荷の低減とBCP(事業継続計画)への対応を両立する体制の構築を推進しています。これらの取り組みを通じて、持続可能な未来への責任を果たし、社会から信頼される企業を目指していきます。

循環型経済の実現に向けた取り組み

工場におけるリサイクルの推進

トピアグループは、行動指針の中に「循環型社会構築への貢献」を掲げており、環境負荷低減を目指した効率的な資源の活用、リサイクルを推進しています。限られた資源を有効に利用するため、原材料の投入量を抑制する生産設備の導入をはじめ、資材の再資源化を通じて、製造過程で発生する廃棄物の抑制に向けた取り組みを推進します。

● 試作金型に使用する材料の循環

プレス成形金型には、量産部品を製作するための量産金型と試作部品を製作するための試作金型があります。量産金型の場合は鉄、鋳物などの硬い素材を使用しますが、試作金型の場合、柔らかい素材である亜鉛合金材（ZAS）を使用し、自社の溶解炉にて casting しています。ZAS 鋳造は、創業当初より自社で行い、ZAS の再利用も行っています。

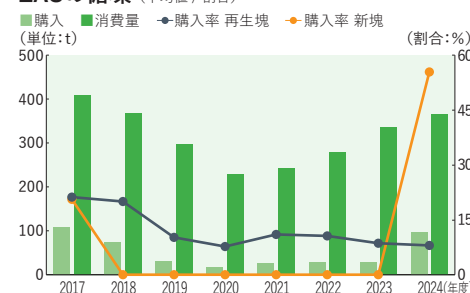
また、鋳造工程で必要となる砂は、硬化剤の影響もあり固形となるため従来は産業廃棄物としていましたが、2012年度砂を再利用する事を目的に鋳物用砂攪拌機を導入し、廃棄物削減に寄与しています。



鋳造用砂リサイクル用攪拌機

材料（ZAS・鋳造砂）の循環の推移

ZASの循環（平均値 / 割合）



鋳造用砂の循環（平均値 / 割合）

